

## ダイビングだけじゃない！

道路、鉄道、トンネル、橋、ダム、港湾、空港など、人々の豊かな暮らしを支える「土木」について詳しく学ぶことができる海洋技術コース。6月8日（月）の総合実習では、土の細粒度の適否を判定する「土の液性限界・塑性限界試験」を行いました。土木工事（測量や施工）を行う場合は必ずその地盤・土質の調査・試験が伴います。そして、その結果が工事の成否に大きな影響を与えるのです。極端に言うと、どんなに頑丈な家を建てても、建てる場所の地盤が軟弱であれば、家は沈んでしまいますよね。土の性質によって建物の安全性が左右されるということであり、土の性質を知るとはとても重要なことです。皆さん、海洋技術コースで、土木のプロを目指しましょう！



土木・建築系に進学する生徒もいます。



2年生が頑張っています。

## 毎日すくすく育っています。

5月下旬、2年生の日直制飼育管理が本格的に始動しました。今年購入したトラフグ種苗の管理を中心にやりますが、その他の水槽の掃除や換水、給餌の方法を3年生から教わりながら管理していきます。トラフグの育成はもちろん、ホンモロコやヒラメの管理方法や、コースとしての研究や生産についても学んでいきます。



ホームページでも情報を発信しています！

## 今月の1枚<マリンバイオ部>

今回はギンブナの不思議な繁殖を紹介します。本種は渓流域を除く淡水環境のほとんどの水域に生息し、汚染や貧酸素の水域・環境にも強いので、日本全国（一部離島を除く）に分布していることから、誰にでも馴染みのある魚といえます。「マブナ」というと、概ね本種を指します。

地域によって差はありますが、ギンブナはオスが極端に少なく、多くは雌性繁殖によって再生産が行われています。つまり、メスだけで繁殖しているのです。メスだけで繁殖しているということは、生まれた子はすべて親のクローンであるということです。雌性繁殖するメスの染色体は3倍体（3n）から数倍体であることが多く、コイ等の産卵に混じって繁殖し、他魚種の精子で卵の発生が始まります。身近な魚にもこんな不思議があるのです。

### ○在校生からのメッセージ○

海洋科学科 2年 宇野心音（江陽中学出身）

私は父に海洋高校を受検することを反対されていた。朝早く起きて駅までいけないだろうというし、電車代もかかる。海の高校ではなく普通科の高校に行ってほしい、というような理由で反対されていた。何を言っても反対された。だから、父にも海洋高校のオープンキャンパスに来てほしいといった。先輩方の姿や学校に雰囲気などを父に見てもらった。

私がすごいと思っていることや活動などを父に話した。オープンキャンパスが終わったあと、父と話した。先輩方のあいさつや学校の雰囲気など自分自身が成長できる経験などがあり、私が海洋高校を受検することを認めてくれた。

私は、海洋高校に入って変わったと思うことが多くある。中学校までの私は、クラスで発表することや自分の意思を人前でいうことも苦手だった。でも、海洋高校で積極的に自分の意見を発表したり、班内で意見を出したりする力が身に付いた。発表することで共感を得ることができ、反対の意見を聞くこともできた。また、自分から動くということ、周りを見て行動するなど、少しずつ身に付いてきたと思う。海洋高校では、いままでしたことがないことへの挑戦、普通科では体験できないような実習などに取り組むことができる。自分を変えたい人や新しいことに挑戦したい人に海洋高校に入学して体験してほしい。



### ○卒業生からのメッセージ○

第八管区海上保安本部 総務課 庶務係

清藤 薫 さん 平成24年度卒（西院中学出身）

私は、海洋高校卒業後、海上保安庁（海上保安学校 船舶運航システム課程 機関コース）へ入庁し、3隻の巡視船勤務を経て、現在は第八管区海上保安本部で陸上職員として勤務しています。普通科ではできないことを海洋高校で3年間経験してから自分に自信を持てる社会人になったと思っています。



## 海洋グルメ<地元たっぷり丹波くりのタルト>

平成31年度、「福知山丹波くりスイーツアイデアコンテスト」に出品し、学生部門で入賞した作品です。当時の食品経済コースの3年生（村田真由佳さん（城南中学出身）、原美咲さん（栗田中学出身）、高岡翔大さん（大宮中学出身））が考案しました。マーケティング（市場活動）を考え、ストーリー性を持たせるため桑の葉を使っています。

### ○材料（6人分）○

タルト台 6個 栗の渋皮煮 6個 無塩バター 50g 上白糖 30g  
卵 1個 アーモンドプードル 35g 薄力粉 15g 桑葉パウダー 5g

### ○作り方○

- 1 タルト台を軽く空焼きしておく。
- 2 室温においたバターに砂糖をすり混ぜ、卵を加える。
- 3 粉類を合わせてふるい、1にしっかりと混ぜる。
- 4 タルト台に3をしぼり入れ、栗を並べる。
- 5 溶き卵を塗り、180℃のオーブンで20分焼く。



## 今月のおすすめ本～図書室から～

『ペンギンもクジラも秒速2メートルで泳ぐ』

佐藤克文 著 光文社

みなさんは「バイオロギングサイエンス」を知っていますか。生物に直接データロガーを取り付けることにより、本来の生態環境下での生物の動きを観察できるようになりました。ここでは、ペンギン、アザラシ、ウミガメなどの水生生物が、海の中でどのように活動しているのかをハイテク機器を用いて調査しています。生物研究に興味がある人はぜひ。

平井 翔（伊根中学出身）

\*\*\*\*\*

『ディズニー そうじの神様が教えてくれたこと』

鎌田 洋 著 SBクリエイティブ株式会社

この本は、仕事の大切さについて教えてくれます。主人公の男性は、やっとの思いでディズニーランドのキャスト（スタッフ）になれましたが、配属先は「夜間清掃員」でした。その結果に残念に思っていたが、「掃除の神様」に出会い、清掃員にやりがいを感じるようになります。この本の内容にあるように、海洋高校の食品経済コースでもやりがいを感じられる実習が多くあります。何かに挑戦したい人にこの本をおすすめします。



藤田 杏香（青葉中学出身）

## 実習レポート

■1年「水産海洋基礎」■6月22日（月）

■海洋学科群 1年

■関 日菜子（宮津中学出身）

■本時の目標 食品加工の知識と技術の習得

■本時の内容 食品加工実習（3枚おろし）

■今回の実習で、食品経済コースでは、返事やあいさつなど当たり前のことがしっかりとできなければいけないということが分かりました。料理がどれだけ上手くできても、人に「おいしそう」と思わせるような行動、身なりで料理を作るという先生の指導にも感動しました。私は食品経済コースを希望しているので、料理の腕を上げるだけでなく、礼儀作法もしっかりと身に付けていこうと思います。



## 校長室より

学校再開から1ヶ月余りが経過し、いろいろなことが軌道に乗って動き出しました。

2・3年生は、各学科・コースでのキャリアトリアル（集中実習）で学びを深化させていますし、1年生も「水産海洋基礎」の授業（実習）を中心に、さまざまな体験をしています。

1年生は、今のうちに2・3年次の学科・コースを選択しなければなりません。「水産海洋基礎」の実習では、手旗信号、カッター訓練など、シーマンとしての基礎の習得に加えて、実習船「みずなぎ」体験乗船、生物の観察、シュノーケリング、魚の三枚おろしなどに取り組み、自分の興味の方向性や適性を確かめています。

海洋高校での学びは、知識・技能の習得だけでなく、未知への挑戦があり、一人一人の将来へとつながっています。自らの可能性に目覚め、豊かな人生を切り拓いてほしいと願っています。